

令和5年度第1回八代市社会教育委員会会議 会議録

令和5年8月23日（水）15：30～17：00

会場：八代市公民館 AB会議室

出席委員 林委員、松本（卓）委員、松本（啓）委員、三栗野委員、高倉委員、寺尾委員、
徳田委員、山本委員、薄田委員、生田委員

欠席委員 岩本委員、押方委員

事務局 北岡教育長、田中次長、高崎課長、米村主幹兼社会教育係長、
西村生涯学習推進係長、満永参事、田島参事、小林主事、中田主任、小多主事、
木本社会教育指導員、塩田社会教育指導員

1. 開会

2. 委嘱状交付

3. 教育長挨拶

4. 委員並びに事務局紹介

5. 事務局説明

6. 委員長、副委員長選出

自薦、他薦が挙がらず、事務局一任となる。

事務局から、委員長に生田委員を、副委員長に徳田委員、三栗野委員を提案し、承認される。

委員長就任挨拶

7. 議事

(1) 令和4年度事業報告について

事務局より令和4年度生涯学習課の主な事業について説明。

【質疑応答・意見】（抜粋）

（ A委員 ）令和4年度の事業の中で新たに取り組んだ事業及び課題等についてお尋ねする。

（ 事務局 ）新たに取り組んだ事業や成果が上がった事業

令和4年度事業報告の1ページ、人権教育事業の②「人権教育研修会」を初めて開催した。

八代市及び氷川町の社会教育団体、教育委員会職員、人権同和教育・啓発関係機関の関係者を対象に熊本県人権教育研究協議会会長を講師に迎え「なかまをつくる部落に生まれて」を演題に開催した。

次に地域学校協働活動事業の5ページ⑤「各種研修等」で教職員との意見交換会を開催した。地域学校協働活動事業について先生方でも理解いただいていないところもあり、先生方への周知と事業に対する理解を深めていただきたく、それぞれの各学校の活動についての意見交換をした。

また、熊本県地域の人づくり講座を先進地である天草市からお越しいただき、天草市での地域学校協働活動の事例発表していただいた。

続いて、6ページの(5)青少年体験活動事業の①アウトドアスクール、例年実施しているが、昨年は、新型コロナウイルス感染者が増加した。しかし子どもたちに色々な体験をしてもらいたく、2泊3日の予定を日帰りに変更し実施した。

また図書館管理運営事業では、10ページの電子書籍について、学校から配布されているタブレットで図書館の本が読めるよう2203コンテンツを追加した。

さらに図書館のサービスを向上させるためにICタグ導入の手続きを進めた。ICタグにより、まとめて何を借りたのかわかるシステムを導入するための準備を行い、令和5年4月から運用を開始した。

続いて、11ページ生涯学習推進事業だが、昨年度からやつしろ市民大学として20講座を開設し、一つの講座を複数回受講できるようにした。

課題については、地域学校協働活動は地域のご理解と学校との連携が必要だと考えているため、双方向の連携を深め、事業の推進を図っていこうと考えている。

(B委員) 3ページ、地域未来塾を実施している学校の受け止め方は。実施してよかったなど、生徒の反応はどうか。取り組みの成果はどうか。

(事務局) 学校訪問により意見・感想をいただいているが、例えば三中では、二人の退職された先生が数学と英語を別室登校の生徒に教えられている。生徒は二人が来られる日を楽しみに学校へ来て、また、別室で勉強して自信をつけて教室に入れるようになった子どももいる。

二見中学校では、全生徒が地域未来塾に参加していますが、先生は若い塾の先生で、生徒に慕われて生徒と先生が相思相愛といますか、お互いに信頼されている。

(C委員) 8ページ、八代市二見自然の森について、毎年ゼロ件だが、何か明確な理由が

あるか。

- (事務局) 二見自然の森は、申請をされた方はゼロだが、地域の方が利用したり、学校で遠足の時に利用するなど、利用が全くないということはない。特に申請をしないで利用されるため件数はゼロになっている。
- (C委員) 以前、子どもが小さかったころキャンプをしたことがあり、今どうなっているのだろうかと思い質問した。
- (事務局) 補足説明。以前は、キャンプ場としてアウトドアスクールでキャンプを行っていたが、数年前の事務事業評価で二見自然の森については、近隣の社会教育施設を活用するなどの意見があり、縮小との方向が示され、キャンプ場としての位置づけから公園として利用していただいている。
- (D委員) 道路も広くなっていい所だ。
- (事務局) 水源が生活用水との共同利用であり、水の出も悪く、水遊びができないなど苦労した経験がある。また、キャンプとして利用される時は、職員が食事やキャンプファイヤーの支援を行うなど職員の負担もあった。
- (D委員) 今のままではもったいない。

(2) 令和5年度事業計画について

事務局より令和5年度の生涯学習課事業計画について説明

【質疑応答・意見】 (抜粋)

- (D委員) 事務局にはっぱをかける。情熱をもって事業を行ってほしい。
- (A委員) よろしくお願ひしたい。

- (A委員) 令和5年度から運用が始まっている、図書館の IC タグについて、またコンシェルジュについて、効果のほどはどうか。
- (事務局) IC タグについて、最初のうちは慣れない利用者があり、常時スタッフが付いて機械操作を補助する状態で、小さなトラブルも多々あった様子。しかし最近は全く問題なく運用されている。複数の本を一度に貸し出すことができるため、便利になったという意見が利用者から出ている。雑誌・閉架書庫の本については IC タグをつけていないため、今後充実させていく必要があると感じている。コンシェルジュについて、窓口専用ブースを設けて対応している。今後は全市民に対する周知が必要だと考えている。
- (事務局) IC タグについての補足。導入しているのは本館のみで、鏡・千丁の分館では導入できていない。

(3) 地域学校協働活動について

事務局より令和5年度八代市地域学校協働活動事業計画について説明。

【質疑応答・意見】（抜粋）

- （ E委員 ） 地域の方々の協力は大きなものがある。職場体験学習での職場探しや、熊本子ども芸術祭など。ただ、地域とともにある学校づくりというコンセプトがあるが、逆に言えば、学校だけがWINという状況になりがちだ。学校支援だけの一方通行ではいけないのではないかと思う。地域学校協働活動というのは、学校と地域の課題を双方の力で解決するWIN-WINの関係というのがおおもとの考え方だ。学校側としては、地域の課題に対する貢献を考えないといけない。地域・学校や地域コーディネーターとの対話がとても重要で、何が課題なのか、何が実行可能なのか、対話をしておかないと学校ごとに大きく違っていくのではないか。東陽中校区であれば、大きな現状として過疎化がある。地域の活性化に向けて伝統文化学習に取り組んでいる。お互いがWIN-WINとなるような形で取り組んでいきたい。
- （ A委員 ） 東陽中学校での地域学校協働活動の取り組みについてお話をいただいた。小学校ではどのようにされているか、お聞きしたい。
- （ F委員 ） 月に一回は地域コーディネーターに来ていただく日を設けている。職員との関わりを持てるようになった。色々なニーズを話し合うときに、適切なタイミングを意識することが大事だ。何らかの課題が話題として出て、人員を探すという流れができており、これを引き続き充実させていく。情報のキャッチボールが重要である。今後の課題は、現状として地域コーディネーターは一人や二人であり、何かあったときの対応を考えなくてはならないということである。
- （ A委員 ） 地域コーディネーターに対する情報提供や支援が必要である。生涯学習課でも研修会などを継続してほしい。
- （ B委員 ） 八代市だけでなく、全国的にも不登校の子供たちが増えてきている。原因も掴みにくいとのこと。各家庭での価値観などが絡んでいるのではないかということだが、一人でも多くの子供が学校に出てきてくれればということをお願いしている。私にも孫がいる。子どもたちをしっかりと見つめていかなければならない。声かけが重要だと思っており、少しでも心が和んでくれればと願っている。もう一つの懸念は、犯罪が家庭内に向いている傾向があるということ。各家庭でも話をしてほしい。そういったことが少しでも減ってほしいという考えのもとで取り組んでもらいたい。
- （ D委員 ） 八代市では、不登校児童・生徒がどのくらいいるのか。
- （ 事務局 ） 教育委員会で数字を把握しているが、この場に用意していない。増えていることは確かである。生涯学習課では取組のサポートをしていく必要があると

考えている。

- (A委員) 生涯学習課だけでなく、関係各所との連携が進んでいると感じている。
- (G委員) 地域学校協働活動にここ何年か参加し、講座などで勉強することで学校との連携ができていると思う。計画を進めていく上でも、周りが嫌とは言わない。学校から要請があったら行くよと。地域コーディネーターと婦人会がタッグを組み、学校から何かあればすぐに動く。協力するというよりも、自分たちが参加するのも楽しい。地域の子どもたちの実情もわかる。登下校の見守りも、地域だから、婦人会だからできることがある。講座に参加していることは、活動に大いに役立っている。

8. その他

事務局説明

9. 閉会